

2012.10.11

第4回京都大学リサーチ・アドミニストレーション研究会

KURAから「R」を取って見えてくるもの

松永 倫紀 (MATSUNAGA Michinori)

京都大学学務部共通教育推進課管理掛

matsunaga.michinori.6x@kyoto-u.ac.jp

今回のプレゼンはすべて個人的見解に基づくものです。

自己紹介

私も名古屋出身です。

妻と娘の3人家族です。

2004年3月

京都大学研究協力部研究協力課

2006年12月

日本学術振興会 (JSPS) 総務部総務課に出向

2010年4月

京都大学教育推進部共通教育推進課

KURAとは？

Kyoto University Research Administrator

学内に存在が知られ始めた今、
改めて定義を確認してみませんか。

はじめに言葉遊びにお付き合い
ください。

KURA: Kyoto University Research Administrator



「K」を取ってみると?



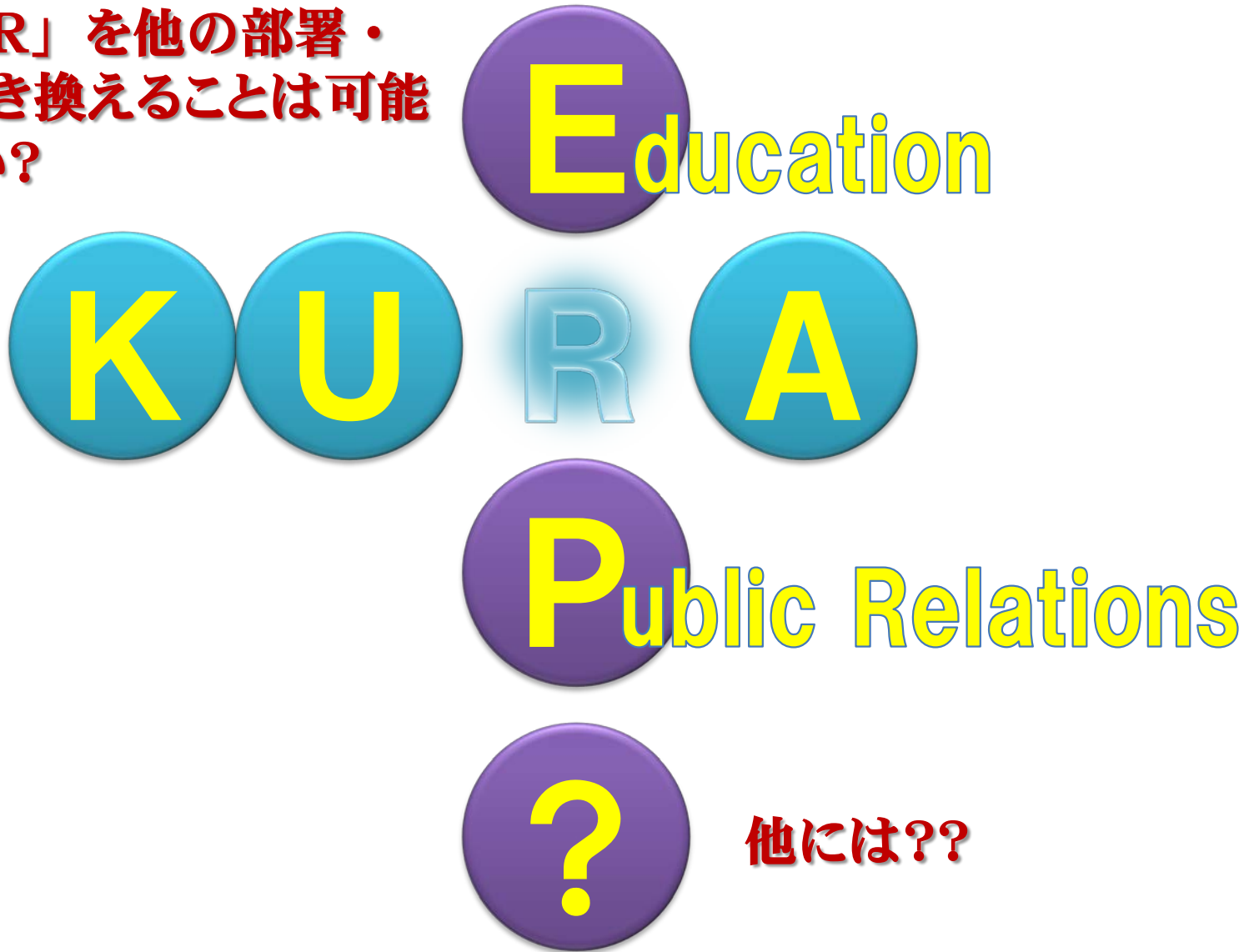
「U」を取ってみると?



「R」を取ってみると?

KURA: Kyoto University Research Administrator

では、「R」を他の部署・
分野に置き換えることは可能
でしょうか？



なぜ「R」(だけ)なのか?という疑問

大学アドミニストレーター論

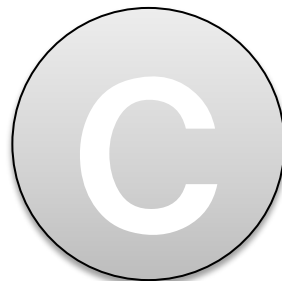
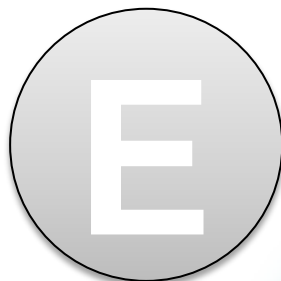
SD (Staff Development) 論

大学行政管理学会(1996), 大学マネジメント研究会(2005)
桜美林大学大学アドミニストレーション研究科、東京大学大学
経営・政策コースetc....

**「プロフェSSIONALとしての大学行政管理
職員の確立」(大学行政管理学会「設立趣旨」)**

(京都大学の) 運営組織全体の課題

「R」だけでは立ちゆかない。

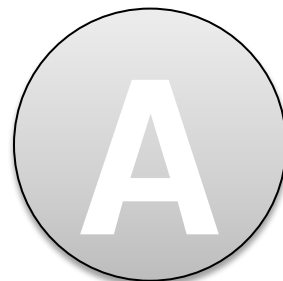


K

U



A



「R」の推進には、多様な“部署”“分野”の連携が不可欠。

他方で、

「R」の持つ広がり

「R」を起点にして、多様な“部署”“分野”との連携が生み出される。



「A」の持つ広がり

「R」から始める。「R」が拓く。

「R」の推進には、多様な“職種”の連携も不可欠。

「A」=中間職（専門業務職員）だからできること

KUR



新たな力を生み出すために

“**熱い**”事務職員と共に（よい）汗をかく。

（事務職員と共に）取り組みを「**発信**」
「**共有**」する。

URAもいいけれど、ちょっと距離があるというか、強化するところが違う気がする。もうちょっと事務寄りのところで、研究支援のマインドを持った人の層が厚くなる方が、よっぽど研究が活性化するんじゃないかなあ。
（同僚職員のコメント）

最初は、URA専門人材という道も面白いなあとと思ったんですけどね。でも最近では、pre-awardは研究者出身のURAに任せておいて、post-awardは、既存の事務職員で十分に対応できるっていう理解が一般的になってきているので、このまま事務職員でいいかなって思ってます。（とある研究大学若手職員のコメント）

みんなの思いを形にする。

「KU」ないし「KUR」の将来像について、
みんなでお考えませんか。

多様な職種・専門分野が集う場。

信念を持った、熱いメンバーから始める。

(責任は取れないが?) 出口を意識する。